

Web.JaSST 2016 Tokyo



株式会社ガイアックス 技術開発部
境野 高義 (さかいの たかよし)



ID: **sakaimo**

自己紹介

趣味：バンドやってます



趣味：バンドやってます



もう一つの趣味



趣味: アイドル

本日は割愛

(本題に入る前に)

「Web業界」と言って
イメージするものが
みんな違う気がします。



私が関わってるWebについて
共有します

Webの中でもこんなジャンルです



Webの中でもこんなジャンルです

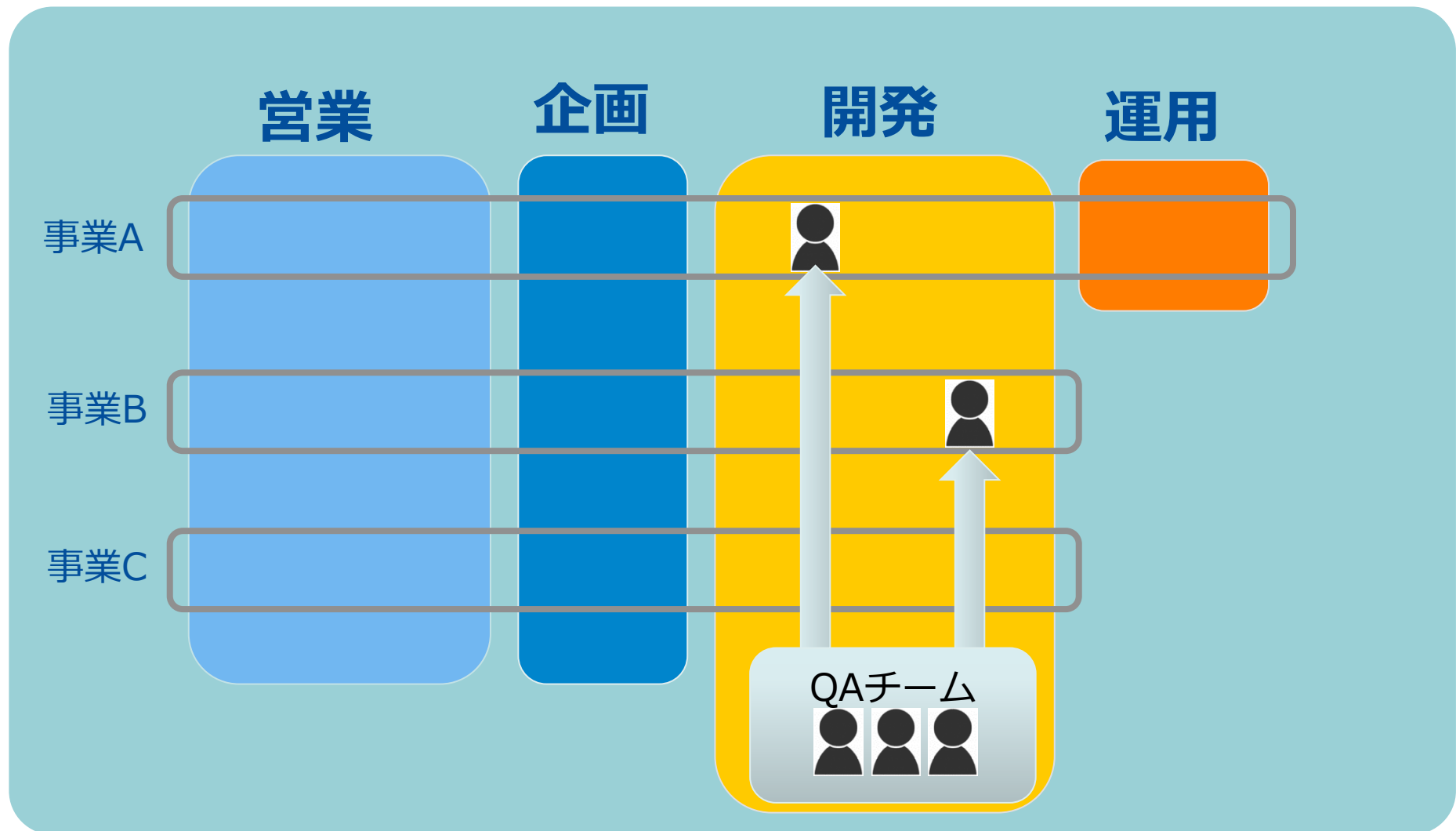


会社の規模と
組織体制は
こんな感じです

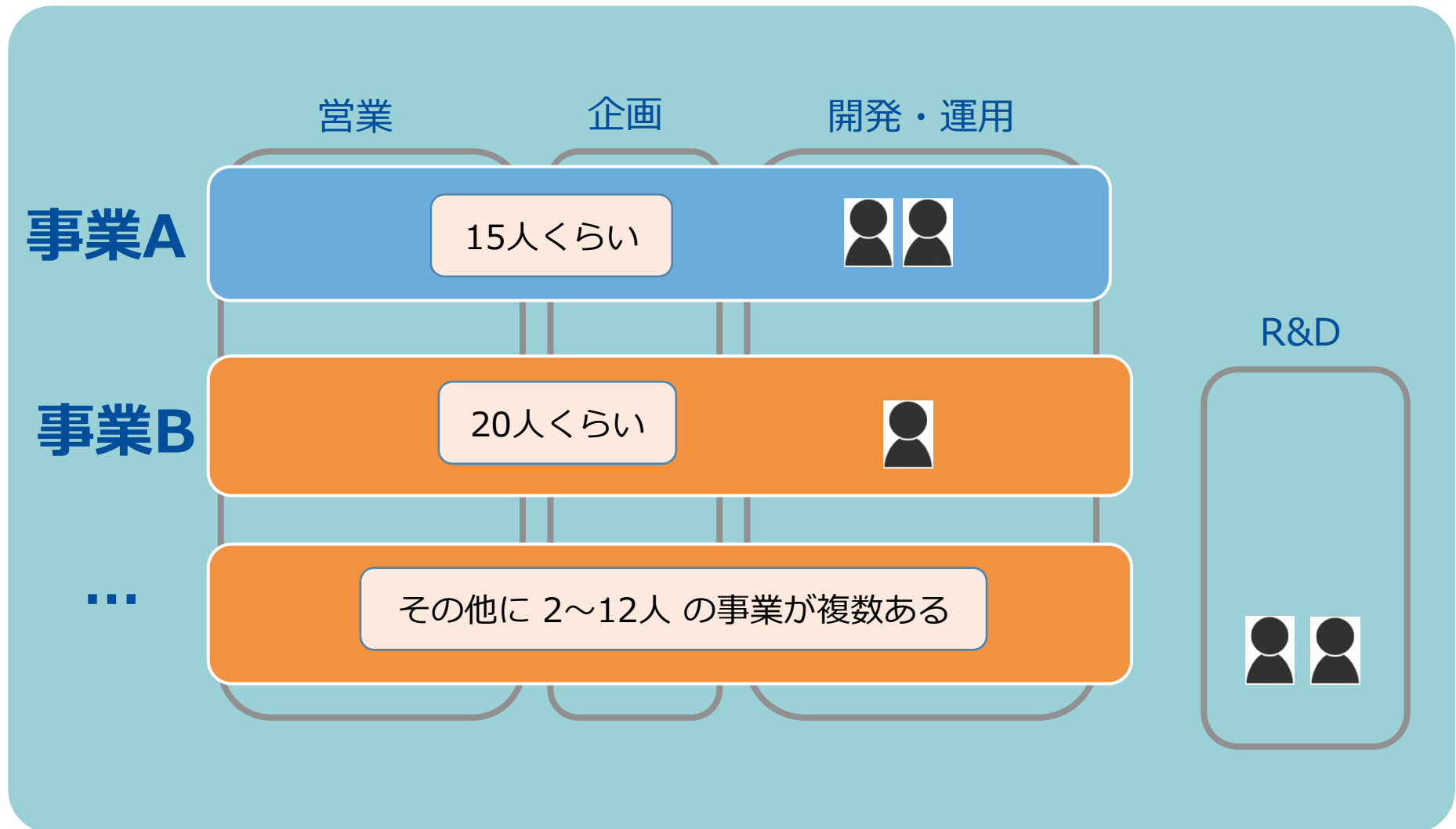
会社の規模

- 従業員数：130名くらい
- 平均年齢：33歳くらい
- 10以上の事業

～2014年：機能別組織



2015年～：事業別組織



ここから本題

テーマ1

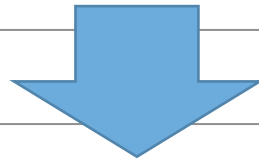
Webのものづくりってテスト計画や戦略が乏しいと感じますか？その辺を強化した事例などありますか？

乏しいかどうか
何かと比較する

デジカメ(私の前職)と比較

デジカメのプロダクト開発

- 重厚長大 (開発20人、QA30人)
- H/Wがあるので失敗できない
- S/Wもユーザーの手元でアップデート難しい
- 商戦に合わせて出荷が必須 (物流もある)



- プロジェクトの計画を文書化して大人数に共有、周知する必要
- メリット：同じ(ような)ものを量産するのには効率的
- デメリット：プロセスを容易に変更できない

デジカメ(私の前職)と比較

Web(弊社)のプロダクト開発

- 小さいチーム(開発 1~4人、QA 0~2人)
- H/Wは無い
- S/Wのアップデート容易
- リリースも容易



- 文書化よりリリーススピードが大事
- メリット：毎回違うモノ+技術の変化→都度ベストな方法を選択
- デメリット：変化に強いが、属人的ノウハウ(開発も、QAも)

テーマへの回答

- 計画や戦略が乏しいか？
 - デジカメと比べると乏しい(明示的な決め事が少ない)
 - ノウハウがテストする人に依存している
- 強化した事例は？
 - (人数が少ないので標準化するよりも)属人的でいい
 - その人の強みを伸ばす方向

テーマ2

レガシーなシステムなどで仕様書などのテストベースが乏しい場合のテストのテクニックがありますか？

事業譲渡(受入テスト)の例

- (数年前の事例ですが…)
- まとめて複数のサービスを受け取ることになった
- ドキュメント無し。稼働しているシステムのみ
- サービス例：SNS、ブログシステム
- PC、スマホ、ガラケー画面もある

やったこと

- とにかく全画面、全機能を動かしてみる
- 1サービスあたり2週間x2人でベストエフォート
- 画面一覧の作成
- 各画面、機能の目的を達成できるか確認

バグを出すためではなく、
意図通りに動くことを確認する、がメイン

やってみて

- 「何が正か」が都度判断になるケースは多い
- やったことを記録して「仕様書」として使えるか？
 - 無理だった
 - 時間との戦い
 - 使えるドキュメントにならない(精度がでない)

今なら

- 正常系だけでもE2Eの自動テストを用意したい

テーマ3

リリース判定などでリリース前に意見を求められた際に判断材料が乏しい場合にとる行動やテクニックなどありますか？

考えられる対応

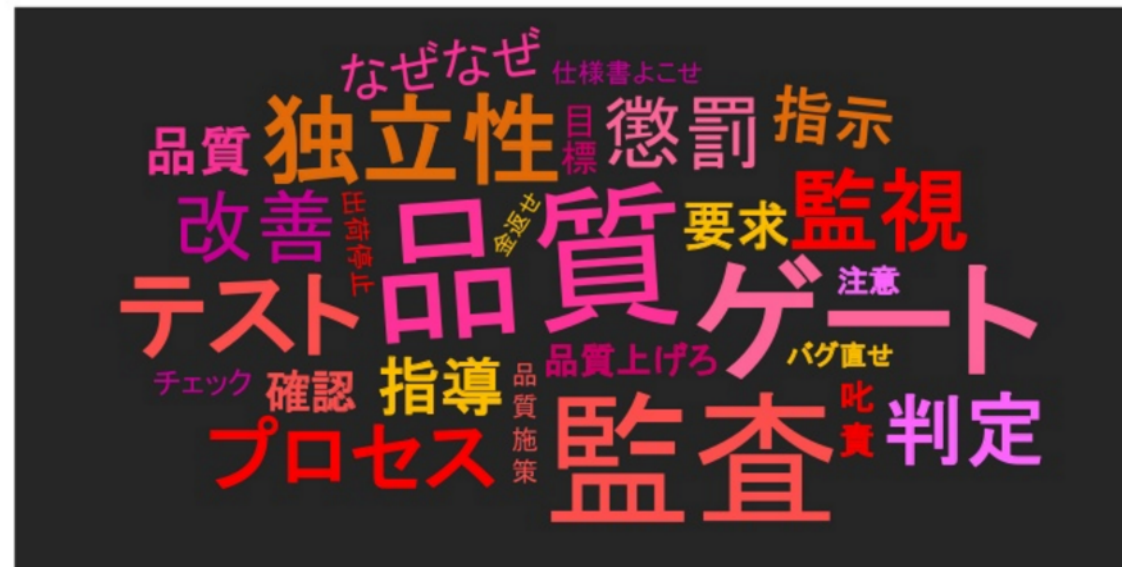
- やばいバグが特定できている場合
 - そのバグだけでも修正する
- 理由はわからないけど不安な場合
 - 機能の目的が達成できるか、だけでも確認する
- リリース後に何かあったときの対応を決めておく
 - 切り戻す、すぐ修正する、ための工数確保しておく、など
- 「リリースしない」判断は事業、チームの状況による
 - 事業のフェーズ、機能の内容、想定される影響

(私の)QAの理想

リリースを止めるのではなく
なんとかしてリリースさせる

RSGT2016で聞いた話

従来のSQAの役割



豆蔵 松永さんのお話



SQAは品質の門番か

ここでシビレた！



<http://www.slideshare.net/hiroakimats/devsqa>

ここでシビレた！

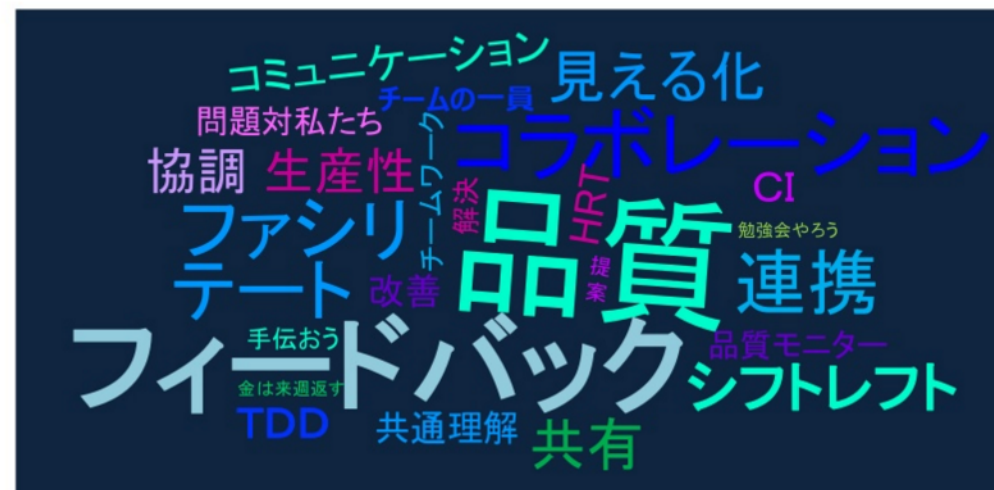


せき止めるのではなくて
滑らかに流れるようにする

豆蔵
西園寺 文子

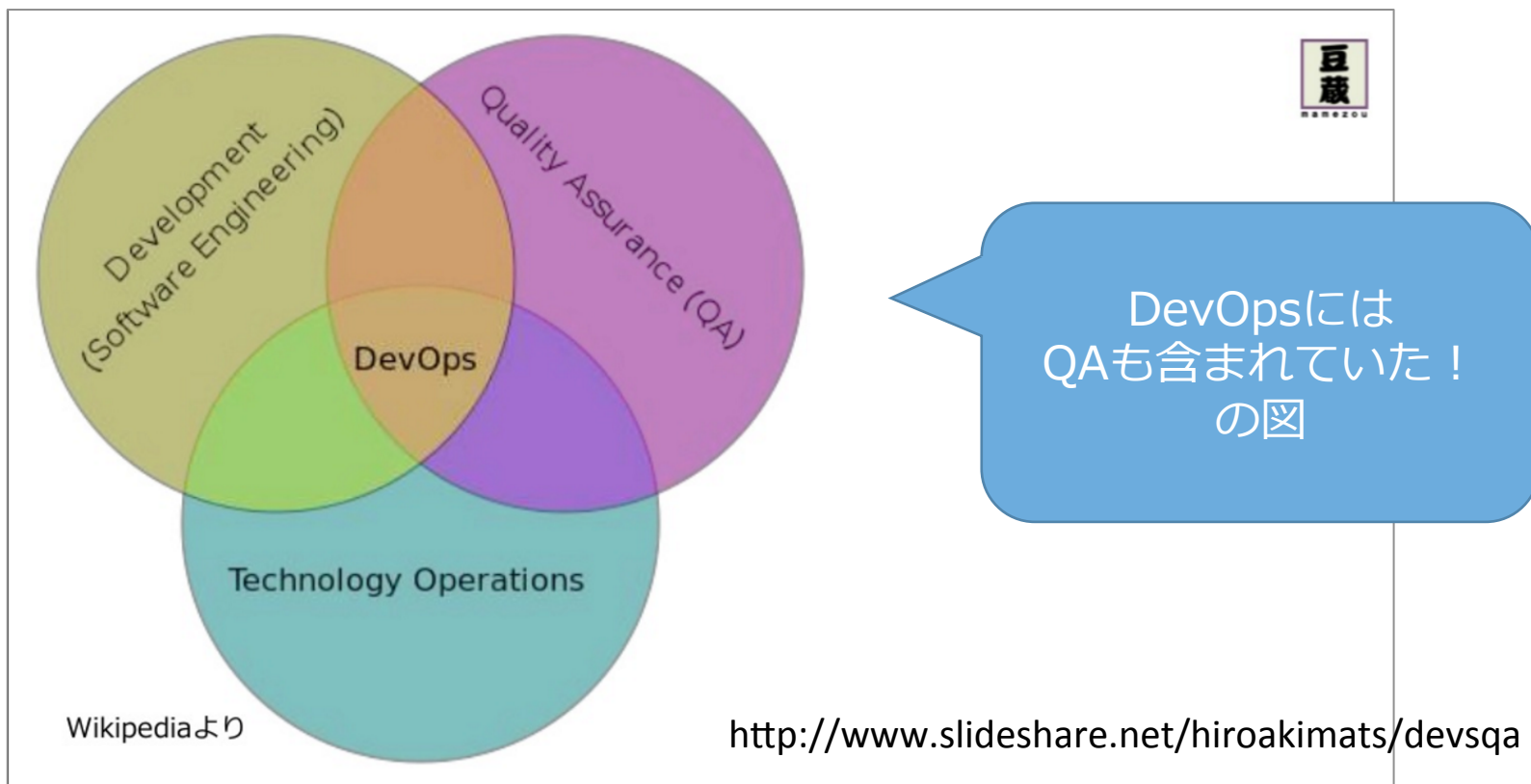


豆蔵
西条市立中央図書館



(私の)Web QAの理想

- 出口チェックでは遅い
- フィードバックを素早く返す
- 「テスト」だけじゃだめ → 領域を広げてprj全体が流れるように



テーマへの回答(理想)

判断材料が乏しい状態にならないように、継続してプロジェクトの状態を把握し、行動する